

《執筆者プロフィール》
しみず かずお
清水 一雄 氏
医学博士。1948年4月生まれ(63歳)。日本医科大学外科学講座(内分泌・心臓血管・呼吸器外科部門)主任教授・内分泌外科部長。
My Med 医療電子教科書に、「甲状腺癌(がん)」執筆。

《人権週間特集》“人権”について考えましょう

問い合わせ 人権推進担当 ☎38-2055

福島原発事故に伴う放射能汚染と風評被害が、復興の大きな妨げとなっています。また、法務局には、風評被害に関する人権相談が寄せられています。根拠のない思い込みや偏見は、差別や人権侵害につながります。このたび、チェルノブイリ原発事故から学んだ、福島原発事故後の甲状腺がん発症に対する福島での対応について、日本医科大学外科学講座主任教授・内分泌外科部長の清水一雄先生に寄稿をいただきました。



なくそう!! 放射能汚染と風評被害

今年三月十一日、東日本を襲ったわが国の歴史で類を見ない大震災・巨大津波そして福島原発事故は、被害地域のみならず日本国民を震憾させました。そしてこの原発事故の衝撃は、われわれが一九八六年旧ソ連現ウクライナ共和国で発生したチェルノブイリ原発事故の悲劇を思い起こさせました。この時発生した多量の放射能汚染をもち、大量の小児甲状腺がんを発症させたのです。甲状腺がんを罹患させた後、チェルノブイリ事故前後十一年間における小児甲状腺がんは七例から五〇八例に増加しています。この増加は一九九五年を境に年々減少してはいますが、成人においては増加してはいます。この原因として、事故後甲状腺がんへの注目度がいまに根強く、多くのベラルーシ国民が検査を受けるためか、被ばく者第二世代への影響があるのか、放射能被ばくの直接影響がまだに続いて調査が必要と思われる。

しいことではあります。今後、長い将来の中で多くの子もたちは福島県にとどまることなく、結婚し就職し、転居し日本全国のみならず世界各国へ羽ばたき、移動・移住し活躍することになります。これらの人々に対して、ここでモ事事故後の検査対象者として生涯にわたる自由な検査を受けることができるように証明書を発行するなど、対応の体制を整える、確立させることが極めて重要なのだと思います。こうすることによって、今後長い将来にわたる不安解消をもちたすことができます。甲状腺がんに対する恐怖感や不安を軽減することができると感じています。さらに、こうすることにより、わが国での今まで経験のなかった原発事故は、甲状腺がん発症にいかんが影響を与えたのかという正確な情報を得ることができ、チェルノブイリ事故と比べ、その規模やヨリ取り量の地域的環境が異なる今回の事故後の将来への影響を誰も予想できませぬ。危惧するだけです。われわれは、今回の事故で起こったさまざまな事象を正確にとらえ、分析する必要があります。

チェルノブイリでは、本年も、九月下旬から十月上旬にかけて、私はチェルノブイリ事故後の甲状腺がん検査と手術のためベラルーシを訪れました。この機会に、ベラルーシ日本大使館大使やベラルーシ赤十字社総裁とお会いし、ベラルーシ共和国がチェルノブイリ事故後、被ばく者に対して現在まで短期的・長期的に、国として地方行政として、またベラルーシ赤十字社としてどのような対応をとってきたのかをお聞きしました。事後の被ばく者に対するフォローアップは国家が中心となり、今でも行っていることとして、事故直後から対応がしっかりとされているという印象を受けました。その詳細は紙面の都合で省きます。その中で日本においては、原発は安全であるとの神話が崩れ、予想だにされなかった事故が発生した後の危機管理の体制が不備であったことを指摘しています。また、対応の遅れが垣間見られ、情報や連絡の不透明さが露呈され、指揮系統の統制の乱れが感じられたことも指摘されています。今回の事故に対し、今度はベラルーシからもその対策に対し、経験からくる適切な指導を受けることも必要かもしれません。

早期発見・早期治療が大事
私がチェルノブイリ検査を十二年続けてきて思うことは、今後福島県を中心に甲状腺がんは増加します。これは、被ばくの原因がどうかは今後しっかりと調査がなされた後でなければ結論は出ませんが、検査を受ける件数が増えれば発見件数も増えるということです。今後われわれ専門家は診断治療に対し、さらに献身的なサポートをする覚悟です。ほとんどの甲状腺がんはゆっくりと発育し、早期発見・早期治療することにより、生命予後はほとんど影響を与えないということを知っていただきたいと思います。そしてそのために、定期的な音波検査されることをお勧めします。

不安を解消するために、福島県で検診が始まることは大変望ましく、早く始まった甲状腺がん検診。チェルノブイリ事故後の経験から福島原発事故の被災者を護るためにわれわれ医療関係者、政府・地方自治体がどのような対応をすべきかは重要な事柄です。福島県において、十八歳以下の子ども三六万人を対象に、定期的な生涯にわたる甲状腺がん検診を実施するとうい決定が福島県立、十月上旬に、第一回が福島県立医大で実施されました。ようやく、始まったかなという印象です。多くの医師と検査技術・検査施設への負担が予想され、多くの医療関係者の協力が不可欠となります。甲状腺専門医の需要も多くなることと見えています。

《阪神・淡路大震災》1.17 芦屋市祈りと誓い
問い合わせ 秘書課 ☎38-2000
阪神・淡路大震災から1月17日で17年を経過するにあたり、犠牲者を追悼するため、1.17芦屋市祈りと誓いを執り行います。<雨天決行>
■日時 1月17日(火) 午前7時～午後5時 ■会場 芦屋公園内「阪神・淡路大震災 慰霊と復興のモニュメント」前 浜芦屋町 ■内容 献花・記帳
* 献花用の花は市で用意します。供花や供物などは固く辞退します。

《阪神・淡路大震災》1.17 ひょうごメモリアルウォーク
問い合わせ 行政経営課 ☎38-2005
大震災の経験と教訓を発信し、1.17を忘れずに語り継ぐことを目的として「1.17ひょうごメモリアルウォーク2012」を、次のとおり開催します。奮ってご参加ください。<雨天決行・警報発令時は中止>
■日時 1月17日(火) 午前8時30分スタート 午前8時～受け付け開始
■集合 川西運動場 ■内容 HAT神戸・なぎさ公園までの約10km

《東日本大震災》本市の被災地支援の取り組み
問い合わせ 行政経営課 ☎38-2005
職員等の派遣について
本市では、震災発生当日から、緊急消防援助隊や応急給水支援また避難所運営支援や市町業務支援など延べ786人の本市職員を継続して派遣していましたが、被災地からの派遣要請の終了に伴い、一旦職員の派遣は収束しています。今後の被災地支援については、関西広域連合や県などの関係機関とも連携を図り、被災地の要請に応じた支援を検討していきます。■“避難者登録”について
県では、このたびの東日本大震災により県内に避難されたかたについて、地元被災自治体から直接、避難者のかたへ支援情報や復旧・復興情報を提供できるように、県内避難者の登録を行っています。市内に避難され登録をご希望のかたは、上記へご連絡ください。■義援金の募集
「東北地方太平洋沖地震災害義援金募集委員会」では、市内の公共施設各所に募金箱を設置しています。引き続き、ご協力をお願いします。

12月後半 CATV 広報番組ガイド
芦屋市広報番組 あしや トライ あんぐる 放送時間(15分)
オープニング 公光公園から 8:30
トビックス 第16回 芦屋能・狂言鑑賞の会 12:00
特集 芦屋市人権教育推進協議会講演会 16:00
外出のお手伝い 18:15
「赤ちゃんの駅」準備中! 22:45
お知らせ 年末年始の救急当番医 ※DVD
エンディング 記念写真集「芦屋の四季・70選」より 貸出可
■広報番組「あしやトライあんぐる」は、11ch(一部地域を除く)でご覧ください。
■「J・COM特別番組」放送のため、12月31日(土)の⑤の放送はありません。
■番組に関する問い合わせ 広報課 ☎38-2006 ■CATV全般に関する問い合わせ ケーブルネット神戸芦屋(J・COM)カスタマーセンター ☎0120-999-000

芦屋市教育委員に小石 寛文 氏を選任しました

問い合わせ 人事課 ☎38-2019
教育委員の任期満了に伴い、12月5日に開かれた定例市議会で議会の同意を得て、小石寛文氏を選任しました。任期は、12月6日から4年間です。
■小石 寛文(こいし ひろふみ)氏
神戸学院大学人文学部人間心理学科教授。
本市では、教育振興基本計画策定委員・潮見中学校PTA会長等を歴任。緑町在住(66歳)。

平成24・25年度 競争入札参加のための業者登録

問い合わせ 契約検査課 ☎38-2012(〒659-8501 住所不要)
市(水道部・芦屋病院含む)が発注する競争入札に参加するためには、あらかじめ登録が必要です。登録の受け付けは、2年に1回(年度途中の新規登録なし)です。
【申請書受け付け】
■建設工事 平成24年1月10日～2月9日 平日・執務時間内 *12月26日(月)から配付
物件等(印刷・役務提供含む)また測量・建設コンサルタント等は終了しました。
【提出方法】
上記窓口(執務時間中)または市ホームページで申請書を入力し、必ず郵送で上記へ、申請書提出方法は郵送のみとなっています。ご注意ください。
詳細は、市ホームページで確認いただけます。

美術博物館の催し

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432
みんなで歌いましょう
■日時 12月16日(金) 午後1時30分～3時 ■会場 講義室 ■指導 LOVE ASHIYA(歌/加藤純子・ピアノ/沖倫子) ■参加費 500円 *歌集*愛唱名歌*野ばら社)のないかたは、歌集代1,000円別途要

【新年の展示】「津高和〜ねこがみた現代美術」展/「阪神・淡路大震災回顧」展
■会期 平成24年1月4日～2月19日
月曜日休館 午前10時～午後5時 *入館は4時30分まで ■会場 第1・2展示室 ■観覧料 一般300(240)円、大高生200(160)円、中学生以下無料()内は20人以上の団体料金。
市内在住の65歳以上のかた・障がい者手帳所有のかた(介護者含む)は、当日料金の半額。

【同時開催】歴史資料展示室の新年展示「昔の暮らし展」(1月4日～3月25日)

谷崎潤一郎記念館の催し

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館 ☎23-5852/☎38-3244
【文学館講座】作家・柳谷郁子が語る ～名作の愉(たの)しみ～
■日時 12月22日(木) 午前10時30分～正午 ■会場 講義室 ■内容 三島由紀夫作「金閣寺」を取り上げ、柳谷郁子先生が作品の背景・作家の心情などを解説 ■定員16人 ■受講料 2,300円 ■申し込み 上記へ

平成24年 芦屋市成人式

■日時 平成24年1月9日(月・祝) 0時30分開場 午後1時～2時・新成人の親睦会 午後2時5分～3時30分・式典
■会場 ルナ・ホール
■対象 平成3年4月2日～4年4月1日に生まれた新成人
*案内状がなくても、参加していただけます。
問い合わせ スポーツ・青少年課 ☎22-0358

芦屋市・モンテペロ市 姉妹都市提携50周年記念事業

問い合わせ 国際交流・市民参画担当 ☎38-2008
昭和三十六年五月にアメリカカリフォルニア州モンテペロ市と姉妹都市提携を結んでから今年で五十周年という記念すべき年を迎えました。この間、姉妹都市交流事業の一つとして、本市とモンテペロ市は五年ごとに市民訪問団を結成し、相互に訪問してきました。提携五十周年の今年は、七月に芦屋市民訪問団がモンテペロ市を訪問、十一月には左表の日程でモンテペロ市からの訪問団が本市を訪問、さまざまな記念交流事業に参加しました。今後は、モンテペロ市からの訪問団内容のメッセージと訪問団の一部をご紹介します。



モ訪問団と「姉妹都市提携50周年記念碑」除幕
■モンテペロ訪問団スケジュール
日程 スケジュール
11月11日(金) 芦屋市到着
モンテペロバラ園見学
市長・議長を表敬訪問
市議会議場見学
11月12日(土) 市内見学(警察署・消防署・芦屋大学・芦屋神社)ホストファミリー宅宿泊
11月13日(日) モンテペロ通り・記念碑の除幕式 記念祝賀会ホストファミリー宅宿泊
11月14日(月) 京都観光
11月15日(火) 浜風小学校(授業・給食)意見交換会語学教室参加者との交流会
11月16日(水) 奈良観光
11月17日(木) 帰国
《モ訪問団から芦屋の皆さんへ》
芦屋の皆さんの心からの歓迎を受け、素晴らしい記念訪問の1週間でした。今回の50周年記念事業に携わり企画して下さったすべてのかたに、感謝の気持ちを伝えたいと思います。今後も芦屋とモンテペロの市民が友好を深め、姉妹都市の絆をずっと次の世代に引き継いでいくことを強く願います。モンテペロ姉妹都市協会 会長 カルロス・ハロ

市役所庁舎等も《節電対策》を実施 “冬季の節電”にご協力ください

東日本大震災による原子力発電所事故の影響により、関西においても冬季の電力不足が予想されています。市では、12月19日(月)から来年3月23日(金)までの開庁日、市庁舎をはじめ市内公共施設の暖房温度を19度に設定し、間引き照明・消灯を実施します。ご来庁の皆さんには、節電の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。また、各ご家庭におきましても、一層の節電にご協力をお願いします。
【家庭での節電 アイディア】
■暖房 エアコンの設定温度は20℃を目安に、扇風機等を活用し、暖まった空気を循環させる。部分暖房(コタツやホットカーペット)を活用する ■冷蔵庫 庫内の設定温度を適切に。冷蔵庫に食品を詰め込みすぎない。常温で保存できるものは、冷蔵庫に入れない ■照明 不要な照明は消したり、照度を落とす。白熱電球をLED電球に取り替えると消費電力は6分の1に ■電気ポット・炊飯器 長時間使用しないときはプラグを抜く。こはんを炊飯器で4時間以上保温しない ■トイレ 暖房便座の設定温度を下げる。使用後は、保温便座のふたを閉める など。
問い合わせ 用地管財課 ☎38-2013/☎38-2121・環境課 ☎38-2051/☎38-2162

芦屋シティグラフ (ASHIYA CITY GRAPH) 好評発売中!

市では、このたび新しく「芦屋シティグラフ(A 4判・52ページ/全カラー刷り)を発行しました。中には、写真とイラストを多用し、芦屋の自然や史跡・名所、市内の施設をはじめ、芦屋のまちの楽しみ方をたくさん紹介しています。若い世代の皆さんにも楽しんでいただけるような情報もいっぱい。眺めるだけでも楽しい1冊です。後半には、行政の動きや統計などの情報も掲載しています。ぜひ、一度手に取ってご覧ください。新しい「芦屋シティグラフ」は、下記で発売しています。■発売場所 市役所北館1階行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナー ■定価 300円
問い合わせ 広報課 ☎38-2006